



# 「生きる力」「共に生きる力」を育む



## 第4次四日市市学校教育ビジョンの具現をめざして

グローバル化の進展、共生社会の実現に向けた取組等をはじめ、超スマート社会（Society5.0）の実現に向けた取組や、持続可能な社会を実現するための開発目標（SDGs）に対する取組等の新たな動きに加え、新型コロナウイルス感染症の感染拡大やこれまでにない頻度の大規模災害など、教育を取り巻く状況は急速に変化しています。

このような予測困難な社会の変化の中で、学校教育においては、これからの社会を生き抜いていく子どもたちが、自分の良さや可能性を伸ばしながら、多様な人々と共に変化を乗り越え、社会の一員として、豊かで充実した人生を送ることができるよう基盤を築く必要があります。学校教育は、その基盤となる「ひとづくり」そのものです。私たち教職員は、その育成に向け、日々の授業改善や様々な活動を仕組む中で、子どもをていねいに見取るとともに、教員の指導方法の見直しを図り、子どもの学び全体が深化するよう取り組む必要があります。

つまり、子どもが「何を理解しているか・何ができるか（生きて働く『知識・技能』の習得）」「理解していること・できることをどう使うか（『思考力、判断力、表現力等』の育成）」、そして、「どのように地域・社会や世界と関わり、よりよい人生を送るのか（学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力、人間性等』の涵養）」という学校教育において重視すべき三要素を、各教科等でバランスよく育むとともに、教科等横断的な学びや連続性・系統性を重視した教育の充実を図り、子どもの発達に応じて、実生活・実社会の様々な場面で活用できる汎用的な能力に結びつけていく取組を進める必要があります。

さらに、学校では、国のGIGAスクール構想により児童生徒1人1台学習者用タブレット端末や高速大容量通信環境整備など、ICT環境の急速な整備が行われています。また、教職員の業務の精選や長時間勤務の実態改善など、教職員の働き方改革についても急務となっています。

本方針では、こういった視点を大切にしながら、「第4次四日市市学校教育ビジョン」に掲げる子どもの姿の実現に向け、具体的な方向性を示します。



### ◆ 四日市市の教育理念を実現するために「第4次四日市市学校教育ビジョン」

本市の教育理念を示した「四日市市教育大綱」が令和3年度に改訂され、その理念に基づき、本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画として「第4次四日市市学校教育ビジョン」（令和4年度～8年度）を策定しました。ビジョンの策定にあたっては、予測困難な時代の中で、その変化に合わせてながら「生きる力」「共に生きる力」を育むことを目指し、次の2つの考え方を大切にしています。

コロナ禍での教訓を踏まえた、誰一人取り残さない“学びの保障”

これからの社会を生き抜くための“非認知能力の育成”

子どもが将来生きていく社会は、私たち一人一人、そして社会全体が、答えのない問いにどう立ち向かうかが問われるとともに、目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に論議し、納得解を生み出すことなど、まさに新学習指導要領で育成を目指す資質・能力が、一層強く求められています。

本市では、これまで「社会人になっても通用する問題解決能力」「社会でよりよく生きるための基盤となる、豊かな人間性やコミュニケーション能力」「生涯を通して心身ともに健康な生活を送るための基盤となる、健康・体力」の育成を大切にしてきました。これらに加えて、これからの社会を切り拓いていくために必要な「学習や生活の基盤となる言語能力」「情報社会に主体的に参画する情報活用能力」を身に付けることで、社会の一員として、豊かで充実した人生を送ることができるよう自分の良さや可能性を認識しながら、多様な人々と共に変化を乗り越えていく「夢と志を持ち、未来を創るよっかいちの子ども」の育成を目指します。

